

協力し、書記北浦大介、下村英時、講師石沢正男らが同会から事務の依頼を受けて展覧会のために奔走した。その結果、多数の名作が
出陳され、これを記念して同年十二月には『現代日本画名作展覧会
図録』（東京美術学校編集、第七回世界教育会議事務局発行）が刊行され
た。本書には和文、英文目録と百七十一一点の作品図版が収録されて
おり、芝田徹心校長が序文を書いている。

㉑ 帝国芸術院設置・第一回新文展

昭和十二年六月二十三日、松田、平生改組による美術界の混乱に
終止符を打つため、帝国美術院官制に代わって帝国芸術院官制が公
布され、従来の官展は文部省美術展覧会（新文展）と改まり、秋に
はその第一回展が開催された。

帝国芸術院会員に選ばれたのは、美術四十六名（旧帝国美術院会
員全員）、文芸十五名、洋楽・雅楽・能楽・建築・書道各二名で、本
校に關係のある美術と書道の部門は次のとおりであった（傍線は本
校現職教官）。

岡田三郎助	中村 不折	結城 素明	和田 三造
和田 英作	藤島 武二	北村 西望	山崎 朝雲
川合 玉堂	荒木 十畝	菊池 契月	内藤 伸
竹内 栖鳳	小室 翠雲	建昌 大夢	西山 翠嶺
板谷 波山	松林 桂月	横山 大観	有島 生馬
香取 秀真	西村 五雲	梅原龍三郎	佐藤 朝山
鍋木 清方	朝倉 文夫	山下新太郎	斎藤 素巖
南 薫造	清水 南山	安田 鞞彦	平櫛 田中

第一回新文展の審査委員には上記帝国芸術院会員の外に左記の人
人が選ばれた（傍線本校現職教官）。

日本画（主任鍋木清方）

松岡 映丘	石井 柏亭	安井曾太郎	津田 信夫
中沢 弘光	橋本 関雪	前田 青邨	藤井 浩祐
五代 清水六兵衛	富本 憲吉	小杉 放庵	尾上 柴舟
川村 曼舟	川端 龍子	小林 古径	比田井天来
			（書道）

洋画（主任中沢弘光）

野田 九浦	川崎 小虎	矢沢 弦月	吉村 忠夫
中村 岳陵	堂本 印象	福田平八郎	宇田 荻邨
矢野 橋村			
小林 万吾	辻 永	中村 研一	斎藤 与里
田辺 至	鈴木千久馬	中野 和高	長谷川 昇
林 倭衛	伊原宇三郎	川島理一郎	
彫塑（主任 北村 西望）			
安藤 照	石井 鶴三	小倉右一郎	国方 林三
澤田 晴廣（政廣）	長谷川栄作	横江 嘉純	
美術工芸（主任 津田 信夫）			
高村 豊周	佐々木象堂	海野 清	六角 紫水
二代 堆朱	楊成	山鹿 清華	吉田源十郎
河村 蜻山	沼田 一雅		岩田 藤七